

Step 1

岡山市の災害リスクを知る 〈地震・液状化危険度〉

液状化危険度は、**極めて高い・高い・低い**が混在しています。
過去の地震からも、被害が想定されます。



Point

液状化発生時には直接的な被害がない場合でも 道路や地盤下にある
インフラ設備(電気 / ガス / 水道 / 下水道 / 通信等)の破損が想定され、
停電・断水などが起こり、マンション生活への影響が出る可能性が高くなります。

●分譲マンションの多いエリア(拡大図-2)での ライフライン被害に影響する液状化危険度想定

Step 1

岡山市の災害リスクを知る

熊本地震での液状化被害



道路被害



橋梁と道路の段差被害



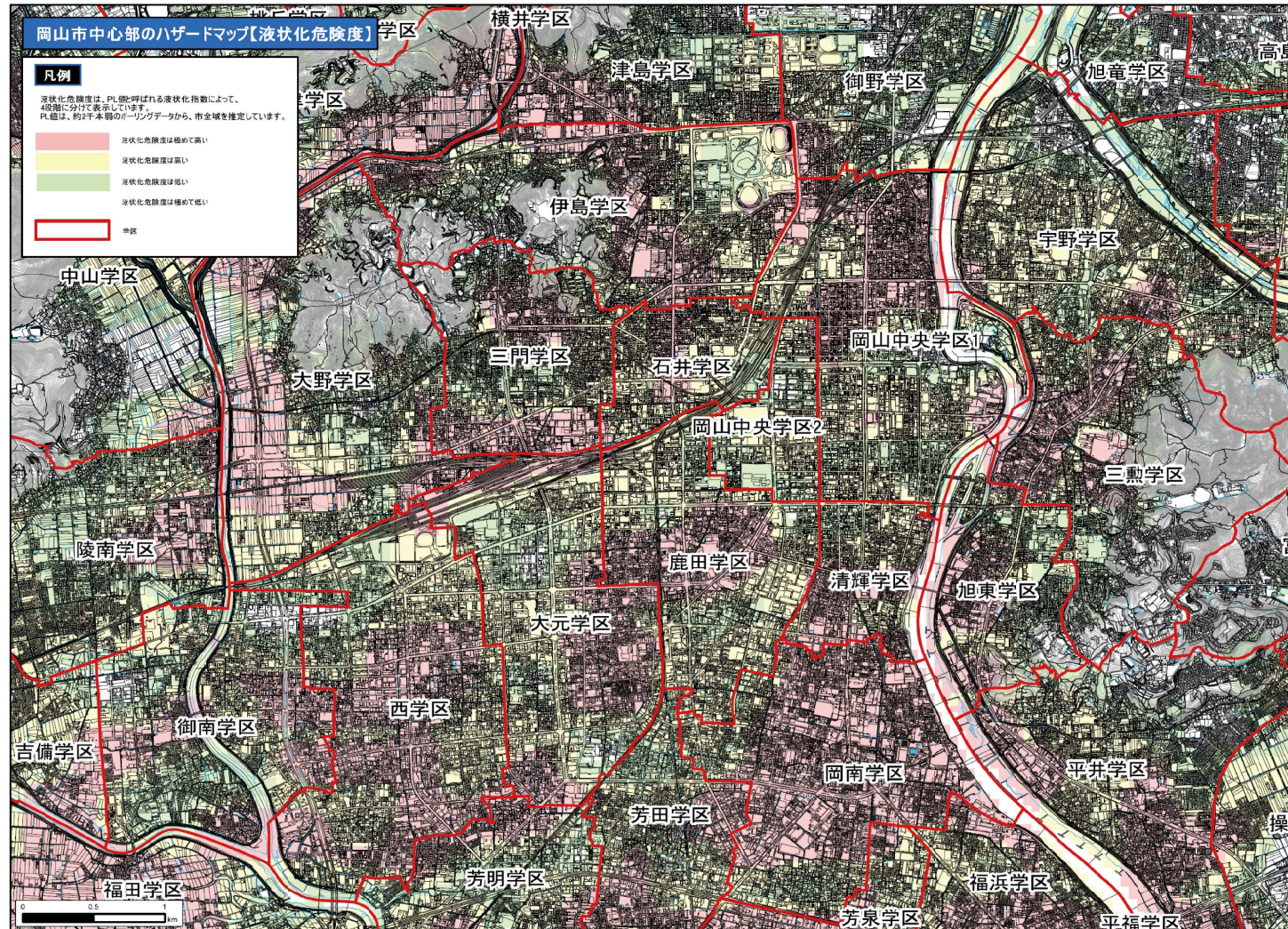
マンホールの浮上り被害

東日本大震災での液状化被害



建物周辺地盤の沈下被害
(浦安市)

出典：東日本大震災・浦安市の記録、浦安市



能登半島地震での液状化被害



道路被害



庭の亀裂被害



道路の噴砂と家屋被害



図-6 液状化危険度(拡大図-2)

Step 1

岡山市の災害リスクを知る

Step 1

岡山市の災害リスクを知る 〈水害の種類について〉

毎年各地で多くの水害が発生し甚大な被害が出ています。
過去の被害を知ること、**自分事にして備えましょう。**

③水害の種類について

平成30年7月
豪雨災害

岡山県では大きな洪水被害が発生し、県内で61名(災害関連死を除く)が亡くなりました。岡山市では死傷者はいませんでしたが、**6,000棟を超える住家に浸水被害が発生しました。**



図-7 平成30年7月豪雨時 岡山市内の被害状況

〈内水被害〉

雨の量が下水道や用水路などの排水施設の能力を超え、河川などの排水先の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり浸水すること。
〈拡大図-1エリアの内水ハザードマップを示す〉

〈洪水(外水)被害〉

河川が増水し堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊して氾濫する。
〈拡大図-2エリアの洪水ハザードマップを示す〉

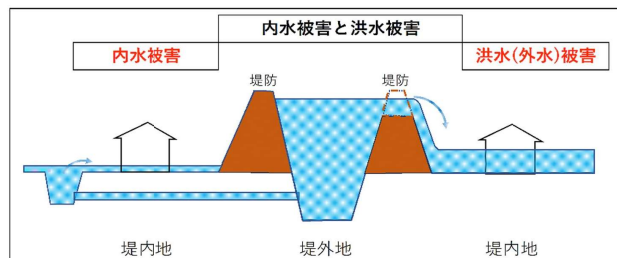


図-8 内水被害と洪水被害の違い



History

昭和9年9月の室戸台風により旭川、百間川が氾濫し、岡山市内で過去例をみない大洪水が発生し、**死者60名・家屋35,214戸に浸水被害**が出ました。
また洪水の浸水位を記録した標識(水位標識)が市内に残っています。

Step 1

岡山市の災害リスクを知る 〈水害・内水〉

内水リスクは沿岸部や河川沿い以外の地域にもあり、浸水が始まると避難時の妨げとなるため**浸水想定区域を把握**しましょう。

●分譲マンションの多いエリア(拡大図-1)での内水による浸水想定

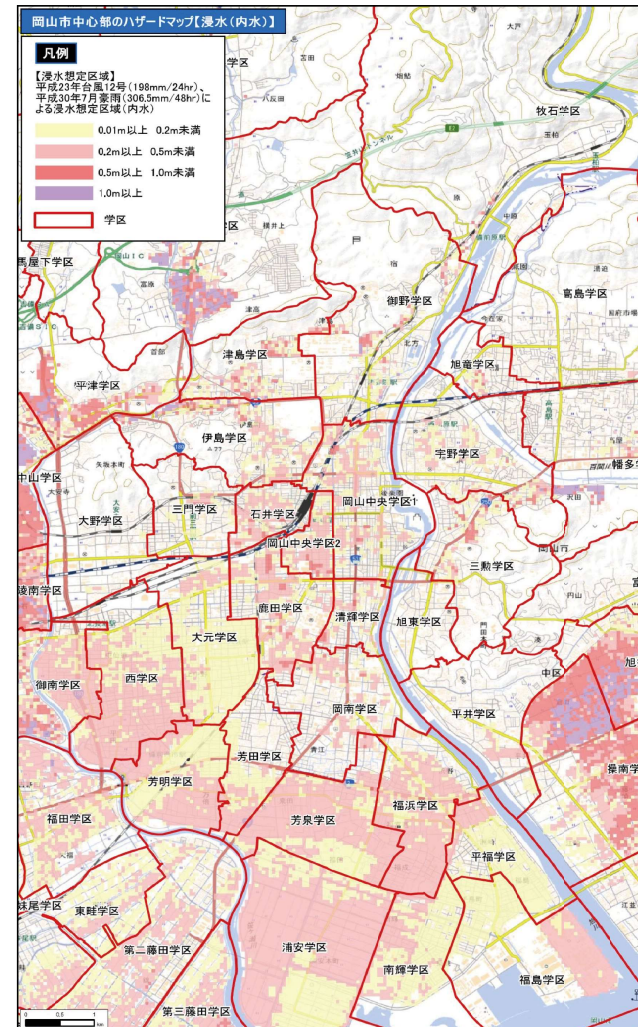


図-9 分譲マンションの多いエリア(拡大図-1)での内水による浸水想定

平成30年7月豪雨



中区宇野学区の被害



北区の被害